

和地ひとみレポート No.21

市内の小中学校、子ども関連施設で除染作業実施

東大和市では、独自の除染基準を設定。



■ 教育委員会で緊急放射線量測定

市の基準を超えた箇所については除染を実施

…東大和市教育委員会は、10月20日～31日に、市内の学校の雨どいの下、側溝、植込み、砂場などを中心に1校あたり約6ヶ所の放射線量の測定を緊急実施。その結果、8校14ヶ所で、国の除染基準（地表より1mの高さの空間放射線量が周辺より毎時1マイクロシーベルト以上高いこと）より、大幅に厳しく設定した市の基準（地上5cmの高さで、毎時0.24マイクロシーベルト）を超える放射線量が測定されました。また、市で実施した子ども関係施設の測定においても、同様に市の基準を上回る場所が1ヶ所あり、学校、子ども関係施設双方とも、該当箇所の除染作業を行なったとのことです。

■ 東大和市独自の基準の根拠は

…国では原則年間1ミリシーベルト（＝1000マイクロシーベルト）以下の空間放射線量を目指すとしていますが、東大和市で使用している測定機は1時間当たりの放射線量を測定するため、国の基準を1時間当たりに変換する計算をする必要があります。さらに、児童生徒の行動パターンをどう設定するかにより、基準とする値は異なってきますが、市では、1日24時間のうち屋外活動を8時間、木造の屋内活動（低減係数0.4）を16時間と仮定して計算しています。その結果、年間1ミリシーベルト以下となる1時間あたりの放射線量は毎時0.24マイクロシーベルトとなるため、市ではこの値を超えた場合に対策を講じることにしています。さらに計測については国の基準をさらに厳しくした地表5cmとし、市の基準をこえた場所の除染を行いました。

該当場所の除染後の計測では、基準値を下回る結果となっています。

■ 除染方法と今後の対応

…除染については、該当箇所の土壌を市の基準を下回るように除去し、除去後の地表面は付近の放射線量の低い土壌で埋め戻す方法で行われました。また、除去した土壌は、土のう袋に収納後、さらにビニール袋に入れて敷地内の児童生徒が近寄らない場所に20cm以上の土が覆うように埋設したとのことです。今回、除染を行なった場所については、継続的に放射線量を測定し、推移を見守って行くとの報告もありました。また、今回測定を行なった箇所以外についても、必要と思われる箇所については今後も同様の対応をしていくとのことです。

■ 自治体ごとに差がある対応方法

…都内の他自治体の議員の方の話の話を聞くと、給食の食材についての情報開示や測定場所、箇所などについての対応は自治体によって様々です。対応についてはベストというところをどこに設置するかは難しいことですが、少なくとも市民の声、ニーズを議会などで行政に伝えていくことが大切だと思います。…最近、市民の方よりガイガーカウンターの貸出は行っていないのかという問い合わせがありました。市に確認すると現在所有しているカウンター4台はフル回転で使用しているため貸出はしていないとのこと。ただし、貸出についても検討をするとの返答がありました。こういう市民の声を、どんどん行政に伝えていかなくては、何も変わらないと思います。いただいた声はスピーディーかつ積極的に、今後も行政に伝えることが何よりも大切だと思っています。今後も、ご意見などございましたら、ぜひお声がけください。

第42回産業まつり終了。11月はたくさんの市のイベントが。



11月5日（土）6日（日）と市役所駐車場で開催された第42回東やまと産業まつり。日曜日はあいにくの天候となりましたが、多くの市民の方が訪れて盛況でした。和地ひとみも農業委員として参加。2艘つくられた野菜の宝船（写真）づくり、宝分けなどのお手伝いをしました。宝分けでは雨天にも関わらず用意された約1000袋の市内で作られた野菜を求め長い行列ができました。11月は市の行事がたくさんあります。市長と語る「第2回タウンミーティング」や27日に開催される「もみじ祭」は市の新たな取り組みです。イベントが意義あるものになるよう、また、今後の地域活性化のためにも、市民の声を反映させるように様々なイベントに、ぜひご参加ください。